

能風

折多留

七

編

9
1147
7



門 9 特
部 1147
巻 7



維新の志

のり 甚店市と略し今川樓の

縁々 正乃とちうとしいとくも

是負の由法那 故年子每り

寄向増負す好 今井仲秋

お目の寄紙 送し 新中

甲横好の備 志と研し 飯

満月

そのあらし

み月

のれ九辰孟纒 景陸軒 志序



万夕公に柳端

七篇

予網羅屋ごうごうのあしは二ツナガ
わりのくさくさごの組かてやり
あめかけをほごにあぢきてあんなつら
仲は町いんも志ごりうごめきり
あんのつて思あまごおざへえしゆり
世は中の海はあうかごりあり
ほこねてびす子てしのはと思る
えご板とあげて世房礼とらけ
けのむし思はるあんなごのよこ

以終も室はく〜
お丁所殿おあしなはく女由と
わ〜
海之邊はく〜
十日もおひとと〜
何とぞわたり男か〜
何とぞお杖やる道〜
が〜

もの〜
は〜
祐子〜
祝〜
拾〜
体〜
何〜
身〜
あ〜

おろしき船と店をのちがらあり
後三年らみくおすむ方がわら
日かたく一も藤とほりたて一何
びくく店又婦がんまぐくく
長髪うで大師い、あらむじく
角白川まぐくおあおれやうと
下級とらくく、お給の事であ
百と下おらまぐくく、あ
くく、おの飛、のあま、あつ、の

え目のせし、おあ、く、あ、て、あ、る
お川、い、お、ん、お、中、の、下、給、の、者
く、の、お、も、く、く、と、あ、ま、て、の、る
人、と、人、の、あ、ら、く、て、あ、ら、ま、あ、ら、く
あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、
あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、
あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、
あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、
あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、
あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、あ、ら、ま、あ、ら、く、く、く、

小島島屋をきいてよしのこくが
後家のあま子をとめたのびが娘を
おどろけ子とまじりつとと場部
ふとて寺大切をたかひつと
神お堂立分ら〜らら〜と
あせむのちかど〜あ〜るのあ
おやらのびす子があ〜姉あ
英〜いゆてせ〜と〜りか〜
因が兼と〜やすと〜此母と〜て

も〜〜〜
字は川のそとから馬の〜とあ
ら〜あ〜と〜と〜数入〜の音さ
あ殿も〜い〜ふ〜と〜ぬかす〜
お母あつち〜びと〜ま〜ま
お世候〜いふ〜と〜た〜し
と〜のあ〜い〜け〜神と〜あ〜と
あ〜の〜の〜〜と〜て〜車
娘〜い〜あ〜あ〜人のあ〜

おもしろい事ばかりあるから
見くじくく下中道おもしろ
りよ行目な一節ありや
高女とびの一帯も
村日給せしころ
おもしろい事ばかりあるから
見くじくく下中道おもしろ
りよ行目な一節ありや
高女とびの一帯も
村日給せしころ

又まじあらず勝つと身世だいらひ
後家とふいふくく海の家
おもしろい事ばかりあるから
見くじくく下中道おもしろ
りよ行目な一節ありや
高女とびの一帯も
村日給せしころ
おもしろい事ばかりあるから
見くじくく下中道おもしろ
りよ行目な一節ありや
高女とびの一帯も
村日給せしころ

今更なる様えがえことおりの事り
お事らなりしるみ源の角かあり
そのせいの事りし其の事りか
ししは口とよむこといふれり
おけしそふあふりやうし海部
初めりし事りしし海部
奥中で言ふが形試初りあり
すしりでも心と差居のおとあり
わしはゆりし灰とけしけいびす
初めりし海部侍りしけいあり
その事りし事りし事りし事りし
さう道りし事りし事りし事りし
お事りし事りし事りし事りし
美後事りし事りし事りし事りし
因りし事りし事りし事りし事りし
けいしりし事りし事りし事りし事りし
くさしりし事りし事りし事りし事りし
その事りし事りし事りし事りし

海をゆく心——水は流るるにまじり
ぬりし海はとらりかたし何れも白くぬ
るべし——おどろきとて音とてし
よ——こころはむかひの物——その
口ぐらゝの音も——ききとてえんぞ
るはつらつとて十緒のたうちり
二三日行回る——こころは
いふべし——いふべし——いふべし
おどろきとて音とてし

海をゆく心——水は流るるにまじり
ぬりし海はとらりかたし何れも白くぬ
るべし——おどろきとて音とてし
よ——こころはむかひの物——その
口ぐらゝの音も——ききとてえんぞ
るはつらつとて十緒のたうちり
二三日行回る——こころは
いふべし——いふべし——いふべし
おどろきとて音とてし

子どもやいづかやかこの大いのもあれし
是れ後庭ですぐはたきくはるるもの
如きは中へはるるはるるはるる
札幌の下井 函館のちんちん
とてはるるはるるはるるはるる
若き人にてはるるはるるはるる
入かこよとてはるるはるるはるる
か—のちんちんはるるはるるはるる
とてはるるはるるはるるはるる
上下で拂ゆる金銭はるるはるる
ふとてはるるはるるはるるはるる
若き人にてはるるはるるはるる
おとてはるるはるるはるるはるる
おとてはるるはるるはるるはるる
又おとてはるるはるるはるるはるる
おとてはるるはるるはるるはるる
おとてはるるはるるはるるはるる
おとてはるるはるるはるるはるる
おとてはるるはるるはるるはるる

る事を因かしのしるしを
 記すことかたしとてその
 縁の事かたしとてその
 正の事かたしとてその
 善の事かたしとてその
 りや少くしるしとてその
 一料らやるとしてその
 ひとすくしるしとてその
 正の事かたしとてその
 善の事かたしとてその
 りや少くしるしとてその
 一料らやるとしてその
 ひとすくしるしとてその
 正の事かたしとてその
 善の事かたしとてその
 りや少くしるしとてその
 一料らやるとしてその
 ひとすくしるしとてその
 正の事かたしとてその
 善の事かたしとてその

せんぬちらのけしごとちがうち
居つて事のむしうきんをさか接
もちきでいへるくさく壳のち
らぬぐりかすまぬかぬと集るのく
十人が九人をさしこむ令を部
性細とぐらちのさしこむさか
ちんゆくと居るしうきんをさか
ちんゆくと令を備居るさか
結ぶしうきんをさかちんゆと
ゆきうしうきんをさかちんゆと
米と集るしうきんをさかちんゆと
しうきんをさかちんゆと
ちんゆとさかちんゆと
ゆきうしうきんをさかちんゆと
ちんゆとさかちんゆと
八景のちんゆとさかちんゆと
令をさかちんゆとさかちんゆと

此は……なるごとく……
其の……
又……
其見……
出……
お……
お……
お……

お……
お……
お……
お……
お……
お……
お……
お……

ちぢりたる山にけしき出たりてぞあまよふ
と舎めむのきれし帯とて
あふぞいで同座はるるふるお座
わらお織ありこもさよかりし事
しよのやにこゝ道草のよき
ちぢりたる山にけしき出たりてぞあまよふ
と舎めむのきれし帯とて
あふぞいで同座はるるふるお座
わらお織ありこもさよかりし事
しよのやにこゝ道草のよき
ちぢりたる山にけしき出たりてぞあまよふ
と舎めむのきれし帯とて
あふぞいで同座はるるふるお座
わらお織ありこもさよかりし事
しよのやにこゝ道草のよき

あ〜世帯のちのちを離るを
つとむのちのちのちのちのち
後よ内一うま〜とてちのちのち
更か〜目立てあ〜むち〜めり
申の申のちのちのちのちのち
と世をち〜せ〜と〜と〜と
旅かあ〜ちやとちのちのちのち
と〜の〜のちか〜のちのちのち
と〜と〜と〜と〜と〜と

く〜り〜と〜と〜と〜と〜と
あ〜の〜と〜と〜と〜と〜と
大ら〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と
よ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
大と〜と〜と〜と〜と〜と
ち〜と〜と〜と〜と〜と〜と
ち〜と〜と〜と〜と〜と〜と

かんざしの花のお切捨て
くも梅の子は髪を結つてや
は身途程なく見る　るの声
その泣人の春のいとよと
おくト　と見えと見え
つゝ思ふにぞと　人泣めり
破のつとそと　海屋の内
あんととくらと　見ると
はし　けし　は　海のと
あんとと　見ると
あんとと　見ると
あんとと　見ると
あんとと　見ると
あんとと　見ると
あんとと　見ると
あんとと　見ると

あつとくらゝいふかへへつたつて
杖も盾やううかぐで河名とめ
をらとよふかへへつたつて
とらへちし髪と結ぶあつた店の元
番を元へつたつてと結と結きて
飯茶かしてつてとよふかへへつたつて
わつたつてとよふかへへつたつて
くかひでつたつてとよふかへへつたつて
百くたつたつてとよふかへへつたつて
揚子地とつたつてとよふかへへつたつて
せうきかへつたつてとよふかへへつたつて
とつたつてとよふかへへつたつて
家とつたつてとよふかへへつたつて
あつたつてとよふかへへつたつて
細もつたつてとよふかへへつたつて
とつたつてとよふかへへつたつて
いもがつたつてとよふかへへつたつて
神はつたつてとよふかへへつたつて

くどかきこ又すゝをぬくそらち代
百部一くみそくからせむふじうせむ
おんぐろのちかははだつてたのち
中一より小神さくからきんせむの
自家のおくみでぬんともなる
海板とあくくたるのに、女
おぬと母ふふいひよ女ふふあれる
おけけくはまはまなるとはくあて
わい祝と志して、あふんさふふあふん

はくくもらうはつたらち地の一
ふり神の因らさう、さのくか、
と雲のまふこく、このまふ、
宿下、目のべと種ふ死ふをくらぬ
くんあふの地のまふ、
馬回くをらさうで、
まのほ、
能ひよと、
はくく

海ののびよかたをいふ事其の表をいふ
うし河のびの片をいふかくしかじと
あふいづのいふ方回略し其の河をい
西の者いふ河をいふるあふいづ
二回碇のいふいふとあふいづ
田のあふいづいづいづいづいづ
あふいづいづいづいづいづいづ
いづいづいづいづいづいづいづ
いづいづいづいづいづいづいづ

出れりいづいづと教入のいづいづ
ね人の海をいづいづいづいづいづ
母をいづいづいづいづいづいづ
おんいづいづいづいづいづいづ
出づいづいづいづいづいづいづ
いづいづいづいづいづいづいづ
いづいづいづいづいづいづいづ
大に十日いづいづいづいづいづ
いづいづいづいづいづいづいづ

夢の心んにおよとて人の海ららし
 下らばあつあつとておもしろく
 小物くらとておととて人の命とせ
 だして離れくまをておれおれせ
 あつとてよ下で女
 男
 一人一首とておととておれおれ
 すとておととておととておれおれ
 とておととておととておれおれ
 のはあつとておととておれおれ

を女の心んにおよとて人の海ららし
 人普くはあつとておととておれおれ
 別のおととておととておれおれ
 二つとておととておととておれおれ
 のはあつとておととておれおれ
 今川とておととておととておれおれ
 のはあつとておととておととておれおれ
 とておととておととておれおれ
 のはあつとておととておととておれおれ

が、
この
風車
天の
終
藤子
片月
り
切
村
あ
し
か
本

藤と菊を以て庚申徳と云ふに
うらぬゆりちぞかゝらむに
くちよとてこちかゝらむに
南田川 船やこゝろに
七つての目一 夜更のこゝろに
さしつ星のぼしつに
かしの葉と大さつに
此新造のうらむに
かぞへの徳をかくるに

心おのほくんかの徳を以て徳
ぬきつとて徳を以て徳
内申がまつて 漢書とてか
あんまつのうらむに
此のちのうらむに
あせちとちらふに
産物でよめたの徳を以て徳
くちよとてこちかゝらむに
志のびとて大さつに

おののびし 繰えおとらへ合
まゝに人すしきし いかぢぢ
うにおしとあつしきふあお可し
奏命あふぐんて 斗屋はふり
紅あかんしきやあしきよふ
通とこせたくあく ちがひ
あんのやとぢぢぢ ぬの戸
おまふり余りしが後あぢあし
さうくゆりあつちぢぢぢぢぢ

揚後 ぬのあぢあぢぢぢの 声がす
おあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
葉あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
十おあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
不てぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
細ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

をいしとちねのゆきつこのことら
かゝ馬で今もゆり下せがせが
尾かららららら浦も海もいそく
母のんぶとらふことお合をあら
しよ世をカニカニつたかから娘の依
回のわらぬまよお海くさくさる
片づくて耳をぬらおとあ神物
ちう髪もいれとておさくしては
おせつらふたていぬたはぬとま
あせせのあまのあまの子をい
千金のいもいもいもいもいも
あつとつとつとつとつとつとつ
書らんとつとつとつとつとつと
海のちうちうちうちうちうち
海もいもいもいもいもいもい
あつとつとつとつとつとつと
あつとつとつとつとつとつと
あつとつとつとつとつとつと
あつとつとつとつとつとつと
あつとつとつとつとつとつと

四つてびりかゝる形かこころいとし
 ころけのやうかきり手のあがり
 しくさくのやうふ初舎の喰ねり
 比をふくむこつたたいけい
 ありやのぶかどと推くこたうこ
 手紙のすこそくつら紙紙うし
 心てあつたはらうこあらうし
 海板のふり人ねのふり
 舟石のふり月夜具のふり

○俳諧風書目録 江都上野 花屋葛波郎

逸風折柄摺達十冊 川折息と羽村代房
四巻 巻一 巻二 巻三 巻四

同川傍折 青川折息 同やまの嵐 上川 梅息

同折白程箋之辻栞篇 江戸 五文屋折白物上者
一巻 二巻 三巻 四巻

同 五文屋折白物上者 同 五文屋折白物上者

同 五文屋折白物上者 同 五文屋折白物上者

同 五文屋折白物上者 同 五文屋折白物上者

